



31 May 2000 No. 27

(本部事務局)(財)日本特産農作物種苗協会内 〒107-0052 港区赤坂 2-4-1

(つくば事務所) 農業情報利用研究会内 JRTつくば事務所

〒305-0034 茨城県つくば市小野崎 143-3

TEL 0298-56-8708 FAX 0298-56-0024

## 15年振りのばれいしょ高値を喜ぶのか、憂うのか？

日本いも類研究会 会長 梅村芳樹

北海道産ばれいしょの価格は1月以降上昇を続け、平均市場価格は中央でキロ200円、道内でも120~150円である。深刻なのは、需要の過半を占める「業務向け」の価格の上昇で、惣菜・一次加工向けの「M下」や「規格外」が80円もの価格で取り引きされている。これは例年の2倍の価格で、加えて物がないたためバイヤーは必死である。6、7月の手配をどうするか？

研修会、講習会に招かれると生産者はニコニコ、判断を間違えて秋に出荷してしまった産地は失敗を活かそうと考えているし、貯蔵した産地はこの秋もと意気込んでいる。当然出来秋の契約には強気で臨む。需要側は情報収集に苦慮し、相談がずいぶん持ち込まれている。種いもに限界があるので新産地の形成も、生産増加も期待できないとすれば、唯一の対応は「輸入物」への切り替えである。仮に「輸入物」への切り替えが一時しのぎであっても、これがきっかけになって確実にそのシェアは増大する。ばれいしょのチルド製品も冷凍製品も加工技術の発展が著しく、品質にバラツキのある北海道産イモ(とくに昨年産の「業務向け」)との比較・検討が行われるからである。最も心配なのは「業務向け」の品質向上にブレーキがかかることである。研修会、青空教室、反省会などでデモンストレーションを繰り返して品質向上を訴えても、「高値で売れたから大丈夫」と意に介さない生産者が増加している。「質より量を！」の時代に戻る気配すら感じる。バイヤーの中にすら量の確保だけで走り回っている者が少なくない。

15年来のばれいしょ高値を国産ばれいしょの振興に結びつける対応を関係者全員で考えて欲しい。「業務向け」は利益のでない価格ではその需要を確保できないこと、品質不良のイモは確実に「輸入物」との競争に負けることを訴えたい。

## 昭和26年(1951)の「いも建白書」

サツマイモ資料館館長 井上浩

戦時中の農政のトップはサツマイモをどのように見ていたのだろうか。それを知りたくて日本農業研究所編著『石黒忠篤伝』(岩波書店、昭和44年)を読んでみた。

石黒忠篤(いしぐろただあつ。明治17年~昭和40年)は、太平洋戦争が始まる直前の第2次近衛文磨内閣の農林大臣(昭和15.7.14~同16.6.11)として米穀の国家管理制度を確立しただけでなく、鈴木貫太郎終戦内閣の農商大臣(昭和20.4.7~同20.8.17)として深刻な食糧不足問題に対応さ

れた方だからだ。

ところが予想に反し、いも類についての具体的な記述はほとんどなかった。戦時食糧問題の中心はなんといっても米の確保で、紙数の多くはそれに割かれていた。

だからといって石黒さんに、いも類への関心がなかったわけではない。それどころか並々ならぬものを持っていた。「いも建白書」がその証拠だとあった。

いも類の国の統制は昭和 24 年の暮に撤廃された。その翌年秋に財団法人「いも類懇談会」が設立された。石黒さんは当時、公職追放の身だったので表面には出ず、陰の産婆役として、その立ち上げに当たられたのだという。

「いも類懇談会」は、農業諸団体と関係業者からなる会で、新しい時代での一層の発展を願い、「いも建白書」を作った。昭和 26 年のことで、石黒さんの考えが強く盛り込まれているという。

同氏は「年により豊凶の差があるのを免れない米を補完する主食として、また工業原料として、いもの増産と利用を国策として盛り上げたいと思っていた。そのような作物としてドイツにはジャガイモがあり、アメリカにはトウモロコシがある。

日本の場合にはサツマイモが好適で、科学的研究が進めばその収量はどれだけ増えるかわからない。だからこれに対して従来、米や蚕に注いだ程度の努力を傾注すべきだ。現在のところ、いちばんの難点は生産性が低いということだ。これを急速に高めなければならない」としていたという(422 頁)。

「いも建白書」は時の総理大臣(吉田茂)と大蔵、通産、農林の各大臣に手渡された。いろいろのことが書かれているが、一番迫力のあるのは最初の条で、こうある。

「一、品種の育成、病虫害の防除、栽培法、貯蔵法等の試験研究規模を稲作、養蚕に匹敵する程度に拡大強化すること」

負け戦の中での食糧不足問題の反省が、戦後になってのことだが、このような機運の盛り上げにつながったようだ。

## いも建白書(要点)

### 生産関係

- 1 品種の育成、病虫害の防除、栽培法、貯蔵法等の試験研究の規模を、稲作、養蚕に匹敵する程度に拡大強化すること
- 2 種苗対策を確立すること
  - (1) 甘藷に就ては、原種園、採種圃による採種組織を確立して、用途並びに立地条件に適應する適品種の普及を図ると共に、黒斑病等のない無病健全な優良種苗の普及に努めること
  - (2) 馬鈴薯に就ては、ウイルス病等のない種苗を供給する現在の採種組織を強化すると共に、急速に圃場検査制度の確立をはかること
  - (3) 健全種苗を安価に供給するために、特別の措置を講ずること。特に遠隔の地に生産される高冷地産種馬鈴薯に就ては、鉄道運賃の軽減、輸送制度の改善をはかること
- 3 病虫害の徹底的防除のため左の施策を講ずること
  - (1) 種苗対策を確立すること(2 参照)
  - (2) 病虫害の予防、駆除を励行せしめるため、協同による組織的活動を促進する方途を講ずること

と

利用関係

4 いも類の飼料化の普及と、有畜農業確立のため、左の施策をなすこと

(1) 甘藷及び甘藷蔓の飼料化の普及をはかると共に、飼料の改良を一段と促進する方途を講ずること

(2) 家畜購入資金の貸付、種畜、子畜の貸与等の措置を講じ、有畜農業を促進すること

5 いも類の加工に関する試験研究施設の拡大をはかると共に、研究成果の実用化を容易ならしむる途を開くこと

(1) いも類の加工に関する科学的研究を強力に推進するために、国立研究機関の充実をはかると共に、民間研究機関をも動員する方途を講ずること

(2) 研究成果の企業化を容易ならしめるため、之が企業適格者に対し国庫助成又は特別の金融をなしうる方途を講ずること

(3) 農業協同組合の加工工場等農村工業施設及び経営の改善をはかるため、モデル工場を設立すること

6 いも類の合理的調理法並びに調理用具の研究をなすと共に、之が普及奨励をはかること

その他

7 季節的に市場に氾濫し、腐敗し易い生いもの流通を円滑にするため、生いもの流通資金確保のための金融措置を講ずること

8 いも類を原料とする工業製品に就ては、物品税を免除すると共に、酒税の軽減をはかること

9 タビオカ、コーンスターチ等の輸入澱粉に関税を設けること

## 第 4 回 総 会 の 概 要

日本いも類研究会事務局

3月15日(水)、第4回日本いも類研究会総会が91名の方々の参加を得て、南青山会館で開催されました。今回の総会では、会員が一堂に集う貴重な機会を有効に活用しようという趣旨で、午前と午後に分けて講演を行うことを試みました。午前の部では梅村会長の挨拶に続いて、みかど農産(株)の中本氏から有色甘しょの加工とその普及、北海道アグリ・フーズの田中氏からは、馬鈴しょの加工と産地との連携というテーマで、それぞれの取り組み状況を説明いただきました。また、東京家政学院短期大学の津久井氏からは甘しょのアントシアニン色素の構造と安定性等の特徴について、また、女子栄養大学の根岸氏からはいも類の成分分析の結果について研究成果を発表いただきました。

午後の部では、北海道農業試験場の遠藤氏より馬鈴しょの煮崩れに関する要因についての講演があり、同じく北海道農業試験場の森氏と九州農業試験場の山川氏から馬鈴しょ及び甘しょの育種の現状について、また、井上副会長からは最近の甘しょの消費動向についてレポートされました。この他、生物系特定産業技術研究推進機構の小林氏からは、2000年国際熱帯いも類学会シンポジウム開催の準備状況等について説明がありました。

講演に引続き、花澤畑作振興課長から挨拶いただき、事務局から 11 年度の会計報告ならびに 12 年度の事業計画に加えて 3 年間の活動の成果と残された課題等について報告・提案があり、了承されました。特に、今回は会場に用意したパソコンと液晶プロジェクターを使って北海道立北見農業試験場の千田氏から日本いも類研究会のホームページの内容を、研究成果のリンク集などを実演しながら説明いただきました。さらに、研究会の主要な事業として実施している新品種等の試験栽培についても、苗や種いもの配布を担当している(株)ミヨシの矢野氏、トキタ種苗(株)の斉藤氏から取組状況や問題点等についてレポートいただきました。

総会終了後はその場で懇親会を行いました。参加者の職業や年齢もバラエティ豊かで、また初めて参加された方々にも自己紹介いただくなど、和やかな雰囲気の中で情報交流が行われていました。

#### 日本いも類研究会の活動に関する了解事項

総会において、事務局から以下の 3 点について提案し了解されました。

- 1 13 年度から会費をアップすることについて、12 年度にアンケート調査を行う。
- 2 連続して 2 年間、会費の納入がない場合には退会したものとみなす。
- 3 メーリングリストの参加資格は、原則として日本いも類研究会の会員とする。ただし、現時点（平成 12 年 3 月 31 日）で参加している非会員は継続して参加できる。

#### 平成 11 年度事業報告及び収支決算書

##### 1 平成11年度事業報告

###### (1) いも類の生産，流通，消費に関する資料並びに情報の収集及び提供

インターネットに開設しているホームページ（JRTWeb）に「新品種試験栽培」及び「さつまいも品種詳説」を追加するとともに、「じゃがいも品種詳説」を全面的に改定した。

JRTWebの質問箱に寄せられた 200件以上の問い合わせに対し、メーリングリストに照会するなどして回答するとともに、頻度の多い質問については「おいもQ&A」のコーナーに追加掲載した。事務局メンバーが全国に分散した状況の中で F A X ニュースレターの編集等の事務作業を効率化するとともに、JrtWebの検索機能の強化など会員へのサービスの向上を図るため、独自のサーバーとインターネットのドメインを取得し、システムの機能向上に取り組んだ。

じゃがいも及びさつまいものメーリングリストにおいて、メンバー間の情報交流を行うとともに、ここで得られた情報をもとに「中津川いも」に関する現地調査を行い、F A X ニュースレターで紹介するなど、情報交流に努めた。

『じゃがいもMini白書』の内容を更新・拡充し、配布するとともに、いも類に係る情報を内容とした F A X ニュースレターを 7 回（20号～26号）発行し、会員を中心に配布を行った。

###### (2) いも類に関する研究会等の開催及び支援

甘しょ新品種試験栽培を実施し、春こがね、アヤムラサキ、エレガントサマー、ベニオトメ、種子島紫の 5 品種を試験栽培希望者（約200名）に提供し、新品種等の普及に努めた。

馬鈴しょ新品種試験栽培を実施し、キタアカリ、とうや、アンデス赤、さやか、ホッカイコガネの 5 品種を試験栽培希望者（約400名）に提供し、新品種の普及に努めた。

「じゃがいもフェスタ'99」(H11.10.9 札幌にて開催)において、『じゃがいもMini白書』を配布し、一般消費者及び馬鈴しょ関係者等に対し広く情報提供を行うとともにいも類研究会への参加を呼びかけた。

全国農業協同組合連合会が開催した「甘しょの講演・パネルディスカッション・試食会」(H11.11.27 東京にて開催)を支援し 甘しょ新品種、品種に即した調理法等を紹介した。

## 2 平成11年度収支決算

### 《収入の部》

(単位：円)

	予算額	決算額	増減	備考
1. 前年度繰越金	1,248,974	1,248,974	0	
2. 普通会員会費	500,000	570,000	70,000	285名
3. 賛助会員会費	900,000	900,000	0	33名
4. 研究会参加費	0	0	0	
5. 助成金収入	1,000,000	1,000,000	0	情報システム構築等
6. その他収入	0	2,636	2,636	利息等
合計	3,648,974	3,721,610	72,636	

### 《支出の部》

(単位：円)

	予算額	決算額	増減	備考
事業費	2,240,000	2,227,248	12,752	
1. 資料編集・配布費	400,000	189,240	210,760	
通信運搬費	200,000	91,620	108,380	
消耗品費	100,000	97,620	2,380	
原稿料・編集費	100,000	0	100,000	
2. 情報システム構築費	1,640,000	1,577,292	62,708	
・ネット参加費	140,000	140,000	0	JSAI及びITN協議会・FAX
通信運搬費	500,000	658,888	158,888	ニュースレター作成及び配送
いも類情報発信システム運営費	1,000,000	778,404	221,596	
3. 研究会費	100,000	123,026	23,026	試験栽培宣伝費等
4. 総会費	100,000	337,690	237,690	
管理費	660,000	600,420	59,580	JSAIへの事務局業務委託
1. 業務委託費	600,000	600,000	0	
2. 通信運搬費	30,000	420	29,580	
3. 消耗品費	30,000	0	30,000	
小計	2,900,000	2,827,668	72,332	
予備費	748,974	0	748,974	
次年度繰越	-	893,942	893,942	
合計	3,648,974	3,721,610	72,636	

平成12年度事業計画及び収支予算書

1 平成12年度事業計画

甘しょ及び馬鈴しょ等のいも類の振興を図るため、いも類に係る諸団体と協力して、消費者、外食、食品加工、市場・流通等の関係者、生産者、学識経験者等の間での情報交流を促進する。

(1) いも類の生産、流通、消費に関する資料並びに情報の収集及び提供

研究会のホームページ(JRTWeb)やメーリングリスト等を新たに導入したサーバーに移行するとともに、質問箱への対応やFAXニュースレターの編集を効率的に実施することができるよう、システムの開発を継続する。

隔月を目途にFAXニュースレターを発行するとともに、インターネット環境の整っていない会員などへの情報提供をよりきめ細かく行う。

馬鈴しょ及び甘しょの『Mini白書』について、必要に応じて統計数値や記述内容の見直しを行い、会員他へ配布する。

(2) いも類に関する研究会等の開催及び支援

おいもサミット(仮称)を開催し、いもの最近のトピック、機能等について紹介する(東京を予定)いも類の栄養面や流通等、各種のテーマに関する研究会や現地調査を行う。

いも類新品種の試験栽培を継続するとともに、いも類関係者による試食会やサンプル提供、講演等のイベントを支援する。

2 平成12年度収支予算

《収入の部》

(単位：円)

	予算額	前年度予算額	増減	備考
1. 前年度繰越金	893,942	1,248,974	355,032	
2. 普通会員会費	600,000	500,000	100,000	300名
3. 賛助会員会費	1,000,000	900,000	100,000	38名
4. 助成金収入	1,000,000	1,000,000	0	情報システム構築等
合計	3,493,942	3,648,974	155,032	

《支出の部》

(単位：円)

	予算額	前年度予算額	増減	備考
事業費	2,830,000	2,240,000	590,000	
1. 資料編集・配布費	400,000	400,000	0	
通信運搬費	200,000	200,000	0	
消耗品費	100,000	100,000	0	
原稿料・編集費	100,000	100,000	0	
2. 情報システム構築費	1,980,000	1,640,000	340,000	
・ネット参加費	380,000	140,000	240,000	JSAIへの参加及びサーバー
通信運搬費	600,000	500,000	100,000	の運用, FAXニュース作成
情報システム構築費	1,000,000	1,000,000	0	及び配送
3. 研究会費	200,000	100,000	100,000	試験栽培宣伝費等
試験栽培宣伝費等	100,000			

業務委託費	100,000			
4 総会費	250,000	100,000	150,000	
管理費	660,000	660,000	0	JSAIへの事務局業務委託
1 業務委託費	600,000	600,000	0	
2 通信運搬費	30,000	30,000	0	
3 消耗品費	30,000	30,000	0	
小 計	3,490,000	2,900,000	590,000	
予備費	3,942	748,974	745,032	
合 計	3,493,942	3,648,974	155,032	

注：1)総会に出席されなかった方で、事前に要請をいただいた方には総会資料を郵送させていただきました。また、若干の余部がありますので、御要望の方は以下までご連絡ください。

農林水産省 畑作振興課いも類班 一ノ瀬

[TEL] 03-3502-8111(内)4326 [FAX] 03-3502-8520

2)つくば事務所の住所と電話番号が変わりました。新しい住所と電話番号は〒305-0034 茨城県つくば市小野崎 143-3 T e l . 0298-56-8708 です。

### 新品種情報（ばれいしょ）

北海道立北見農業試験場 千田圭一

ニュースレターNo. 22で紹介しました、そうか病に強いばれいしょ新品種「根育31号」（道立北見農試育成）は、本年2月に「ばれいしょ農林40号」として農林登録され、「スタークween」と命名されました。

特性の詳細（写真もあります）は、J R T - W e b の <http://www.jsai.or.jp/jrt/var/n40.html>

試験成績の概要書は、道立農試 北の農業情報広場

<http://www.agri.pref.hokkaido.jp/center/kenkyuseika/gaiyosho/h11gaiyo/1998104.htm> をご覧下さい。

また、本年は「十勝こがね（北海79号）」「北海83号」「スノーデン（P971）」の3品種が北海道の奨励品種に決定されました。「十勝こがね」は、良食味・高品質が特徴の食用品種、「北海83号」は、そうか病抵抗性の食用品種で、ともに北海道農業試験場で育成されたものです。「スノーデン」は、カルビーポテト株式会社がアメリカから導入したポテトチップ原料用の品種です。これら3品種の詳細については下記のW e b をご覧下さい。

「十勝こがね」 <http://www.jsai.or.jp/jrt/var/n41.html>

「北海83号」 <http://www.jsai.or.jp/jrt/var/n42.html>

「スノーデン」 <http://www.jsai.or.jp/jrt/var/snowden.html>

道立農試 北の農業情報広場（課題一覧）

<http://www.agri.pref.hokkaido.jp/center/kenkyuseika/ippan12.html>

注：これらの新品種は、原原種、原種を増殖中ですので、一般栽培用の種いもの入手は数年後（2～3年後？）になります。また、入手可能な品種でも、種いもの需給調整をしながら計画生産して

いますので、栽培する前年のうちにJAや種苗会社等に申し込む必要があります。

## 第12回 国際熱帯いも類学会シンポジウムについて

農林水産省畑作振興課いも類班 一之瀬今朝一

5月11日茨城県つくば市の農業研究センターにおいて、標記第2回組織委員会に出席しましたので、その概要を報告します。

現在、外国からの研究者の参加はサポートなしで約50名の申込みがあるものの、今後、国内一般参加者が予定通り集まるか、寄付金が予定通り集まるかに学会シンポジウムの成否がかかっていると思います。

寄附をしていただける場合で手続き等の疑問点がありましたら、当方に御連絡下さい。

### 1 小林委員長のあいさつ

小巻事務局長の人事異動(農水省技術会議企画調査課 主席研究調査官)に伴う、事務局体制の変更(中谷事務局長代理(農業研究センター甘しょ育種研究室長))について紹介された。

### 2 議事

実行予算計画の概略について

- ・ 現在の寄付金等の収入状況から、外国人研究者の招聘に利用できる予算は殆どない。
- ・ 今後、寄付金の期待のできる企業が数社あることから、集約状況を見守る。
- ・ 支出を圧縮するため学会内容の印刷物経費等について事務局で更に検討。
- ・ 学会参加者をできるだけ多く募る。(学割は無いことから1日券で対応)

招聘者の選定について

- ・ 原則として、先進国の者・国際機関の者は選定しない及び地域間・研究分野等のバランスをとること、招聘に要する経費の目安を決めた。
- ・ 招聘優先順位を7名まで決めしたが、現状の予算状況では2名のみ。

エクスカージョンの計画について

- ・ 甘しょ農家ほ場コースは茨城県下の収穫・選果作業等の視察(茨城県農試)
- ・ 甘しょ加工工場コースは舟和いも羊羹工場(浦和市)、甘しょビール(川越市)を検討(ドウエル委員が担当)

スケジュールについて

- ・ 会場の都合からの変更及び研究機関・研究学園都市の見学要望の対応等について、事務局で今後検討することとした。

実行体制について

- ・ 実行委員会等の実行体制を早急に検討することとした。